

平成 28 年 12 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

**中斎塾 北関東フォーラム**  
**平成 28 年度第 11 回**

**丁酉——大いなる変革の年**

前回に引き続き、来年の干支の話を致します。平成 29 年は丁酉（ていゆう・ひのととり）です。先ほど今井副理事長が、正しい情報を沢山とりましょと挨拶をされました。私が物事を判断する時、漢字が出て来た場合は必ず語源を調べます。その漢字がどういう成り立ちで出来たか、どういう意味を持っていて、今はどういう解釈をしているか等々です。ですから丁酉について先ず漢字から調べます。

私が調べている辞書を幾つか持って参りましたので、ご紹介致します。最初に、簡野道明先生の『字源』です。便利で分かりやすいので、まずこれを見ます。次に、加藤常賢先生の『漢字の起原』で語源を調べます。私は学生時代、常賢先生に教わっておりましたので、先生のお顔が浮かびます。先生は漢字について自信にあふれておられ、「わしがこうだと判断したのだから間違いはない。わしの考えに異論がある者は出てきなさい」と公言しておられました。先輩から聞いた話を紹介致しますと、講堂で講義をされておられる時、学生が後ろの扉からそっと抜けようとする時、先生が「待てえー」と大声を出されて、学生はそのまま固まって動けなかったというエピソードも印象深く残っています。それから、白川静先生の『字統』『字通』を見ます。白川先生の辞書は最もポピュラーですね。最後に『大漢和辞典』です。これは日本で最高峰の辞書と言われています。とにかく汗と涙と智恵を結集して調べ上げた集大成ですので、大漢和辞典に出ていなければもうお手上げという辞書です。

干支を考えるにあたって、これらの辞書で漢字の成り立ちや意味を調べ、次に 60 年前にはどういうことがあったかを調べます。それには、毎日新聞社の『昭和史』を見ます。時代年表と共にその年の記事や写真が載っていて、非常に分かりやすいものです。

他に、本日の紹介書籍も回覧します。『物理講義』（湯川秀樹著 講談社学術文庫）という本です。これは湯川秀樹さんが学生に講義をした時の講義録です。例えばニュートン力学について、教科書は綺麗に説明が書かれているだけで、発見に至るまでの汗と涙は分かりません。この本は物理という難しい学問を、物理学者の性格から思考過程や試行錯誤ま

で、自分の経験を交えながら楽しく分かりやすく語っています。猪瀬理事長がよく言っておられますが、難しいことを簡単に分かりやすく説明するのは非常に難しいのです。あるレベルにまで達した人たちは、分かりやすく話をしてくれるものだと感じます。

もう一冊ご紹介するのは、『トランプ後の世界』（白岩禮三著 T T S新書）という本で、今井副理事長から戴きました。白岩禮三さんは変わった視点で主張をされると思っていましたが、この本は、近未来について色々な情報がコンパクトに体系立ててまとめられていると感じました。人工知能とロボット、第四次産業革命といった内容は面白く拝見しました。

これからの時代は、アメリカが転落していく煽りで世界全体が滅茶苦茶になると思っています。アメリカは本来もうとっくに転落して普通の国になっていなければいけないのが、グローバリズムを進め、金融商品等を手掛けたものだから少し生き延びたわけです。その結果、道ずれにする国を増やしてしまったというのが現状だと思っています。

アメリカ大統領選が終わりました。以前、「1% : 99%」（1%の教育レベルの高い富裕層で既得権益を享受している人達 VS 99%の教育レベルが低く貧困層、既得権益を持たない人々）というデモのスローガンの話を致しました。クリントンさんは1%の既得権益を持つ富裕層の象徴であるがために落ちた、というのが定説になっているようです。

トランプさんの勝利は、干支で眺めると非常に面白いと思います。奇しくも60年前の昭和32年には、岸総理とアイゼンハワー大統領が会談をして「日米新時代来たる」という共同声明が発表されました。

他にも60年前と係わりがある事柄を申し上げます。先月、インドへ日本の原子力の技術を提供する協定が結ばれました。原子力の幕開けとなったのは60年前、東海村に初めて原子力の火がともりました。また、最近の宇宙進出競争は激しいものがあって、日本も超小型軽量化のロケットを開発しています。その先駆けも60年前、糸川英夫教授らによる国産ロケット第一号が打ち上げに成功しています。

その他、60年前にはどういったことがあったか……。南極に基地が開設されました。国連の非常任理事国に当選しました。60年前に流行った歌は「有楽町で逢いましょう」です。蕎麦のもり・かけが30円～50円。売春防止法が施行され、赤線の灯が消えました。

このように60年前の出来事を並べてみると、60年前に出来た仕組みが、60年経って限界に来たと言えます。ということは、新しい時代が登場しなければならないのです。分かりやすい動きとしては、ハウステンボスに出来たロボットが受付をするホテルです。ロボットホテル開業のニュースを聞いて、私はすぐに家内と行きました。受付はロボットがこ

なしてしまし、レストランの厨房には野菜工場のような設備があつて、そこで作られた野菜が若干提供されているようでした。近い将来、機械を扱う社員だけが残り、社員のほとんどがロボットに変わる、ということが有り得ると感じました。

これはまさにアメリカが原因です。アメリカがグローバリズムで自分の考え方を世界各地に押し付けて、金融革命を拡散させてしまった。そして転落する時に、周りを巻き込んで沈んでいくからです。60年前の日本は、国民の8割以上が中流だと感じていたといひます。今は、上流と下流しかいない状況です。アメリカは先程申しました「1% : 99%」ですから、もっと酷い。それは何故か……。中流の人たちの収入を上流の人たちが吸い上げたからです。中流だけでなく下流からも巻き上げています。それが、アメリカの行なつたグローバリズムの行き着いた先です。企業としては99%の下流の人からは利益を得られませんから、人件費の削減と生産性の向上を進める力をロボットに頼る。ロボットは不平不満も言わず、ただひたすら黙つて働きますから。ロボットを使うことによって上流は更に上流へ、中流・下流は更に落ちていく。それを穴埋めするのがロボットですから、これからますますロボットが出てくるのは決まっています。白岩禮三さんの『トランプ後の世界』に書かれている「第四次産業革命で製造業は一変する。人工知能やロボットを使って人間は要らない時代になる」という状況になっています。

日本経済に関してはどうでしょうか。アベノミクスはもうとつくに破綻しています。ただそれを見せないようにしているだけです。年金はこれから増えると思ひますか？ 国は今、屁理屈をつけて年金をどんどん減らしていますから、少なくなつても貰えるのは高齢者だけです。したがつて、税金まがいほどんどん増えて、手取りは減る。アベノミクスが成功していれば、景気は良くなつていいわけですし、収入が増えていいわけです。大企業だけが儲かつていて、中小零細に回つていないのは、アベノミクスはすでに破たんしているからなのです。

では、恒例の質問を致しまししょう。年末ですから、今年一年を振り返つてお考え下さい。

○ 今年一年、良い日が続いたと思ひ方

何度も言ひますが、天秤にかけないで、良いことがあつたらそれを拡大解釈しまししょう。そうしないと一年間もつたいないですよ。

○ 今年一年、嘘をつくことが少なかつた方

○ 今年一年、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かつた方

○ 昨日からこの時間まで、健康法を実践した方

○ 昨晚寝る時に、明日以降のことを過去形で幸せをイメージできた方

前回もプロポーズを例に説明しましたが、おさらいです。若いカップルがいて、男性は明日、彼女にプロポーズしようと思っている。＜プロポーズは上手くいくだろうか＞とドキドキしながら寝てしまったら、この質問は不合格です。＜彼女がプロポーズを受けてくれた。良かった＞ と思って寝るのは、半分合格です。一歩進んで、結婚式で皆から祝福されて幸せの絶頂にいるところまでイメージ出来たなら、この質問は合格です。

○ 今年一年間、自分を磨いたなと思う方

自分磨きが出来れば、顔つきが良くなります。是非、自分磨きを実践して下さい。

### 予は一 以て之を貫く

では、論語を解説致します。本日の論語の解説は、衛霊公 1、2 です。

【一】衛の靈公 陳を孔子に問う。孔子対えて曰く、俎豆の事は、則ち嘗て之を聞けり。軍旅の事は、未だ之を学ばざるなりと。明日 遂に行る。陳に在りて糧を絶つ。従者病みて能く興つ莫し。子路 愠り見えて曰く、君子も亦 窮すること有るか。子曰く、君子固より窮す。小人 窮すれば斯に濫すと。

孔子が 63 歳の頃です。俎豆とは、祭りの時に使う祭器です。

衛の靈公が孔子に戦の陣立てについて尋ねた。

孔子が「私は儀式に関する事は小さい頃から学んでいるので知識はあります。しかし軍隊の事は習ったことはありません」と答えた。

翌日、孔子は衛を出て陳に行った。

陳の国にあっては食糧の補給が途絶えてしまい、供の弟子たちは病み疲れて、立ち上がる元気もなくなってしまった。

子路がいきり立って言った。「先生のような君子でも困窮することがあるのでしょうか。」

孔子が言った。「君子でも困窮することはある。小人物は困窮したらやけくそになって悪事をするものだ。」

陳は新興の呉に攻められて国が乱れていたもので、孔子一行は一週間くらいそこを動く事が出来なくなってしまって食料の補給が断たれてしまったわけです。イライラしている子路に孔子が、大人物はそのような時でも慌てたり騒いだりしないものだと言っています。ちなみに孔子一行は、楚国の昭王が兵を出して救出されました。ですから一所懸命良いことをしている人は、誰かが助けてくれるのです。孔子自身も論語の中で「私には天から

命ぜられた使命があるので、死ぬはずがない」と言っているのです、相当な自信があったのでしょうか。

「陳に在りて糧を絶つ・・・」という部分で考えます。国が乱れて食べ物なくなる。日本でも終戦直後にこういう状況がありました。その時、日本のお金持ちはどういう動きをしたか・・・。

昭和21年2月17日に金融緊急措置令が公布されました。その経緯は、終戦後、金持ちがどんどん食糧の買い占めを始めて食糧不足になった。農林省がその対策を大蔵省に相談し、大蔵省が知恵を絞った結果、金持ちから金をとり上げて買い占め出来なくさせよう、同時に債務保証もきれいにしておこうということで、富裕層に90%以上の税金をかけて、一般庶民からは25%の税金をとろうという案が出されました。最終決断は、以前も申しましたが、福田赳夫・池田勇人・愛知毅一・木内信胤・大蔵省の事務次官らが会合をもって決めたわけです。その時の大蔵大臣であった洪澤敬三さんは、率先して自分の家屋敷を物納しました。つまり、食料の買い占めを止めるための知恵が、回りまわって財産税・富裕税として国民の税金にどさっとかかってきたわけです。気をつけて見ていると、今、新聞やテレビでも少しずつ富裕税という言葉が出てきますから、そのうち同じような状況になるでしょう。私の感覚だと今は6割税金で持って行かれますね。江戸時代は四公六民（収穫の六割を年貢として納める）で一揆の旗が上がりました。それからすると、今の日本は税金をとり過ぎです。ですから税制も、もう行き詰っています。

税制が行き詰まって、経済の仕組みも行き詰まって、色々なもの行き詰るから、来年はガラッと変わらなければいけないのです。先ほどの干支の話で「丁」は新旧勢力の衝突と申しました。「丁」は釘を表します。釘はまるで違うものを結びつけるという性質を持っていますから、旧勢力と新勢力とをがっちり連帯させるという意味です。「酉」は酒の甕で、甕の中の酒が発酵して熟す。つまり革命が起きるという意味ですが、実際は革命までいきませんから、来年は大いなる変革の年だとお考え下さい。60年周期で眺めても、とんでもない時代が始まるとことを暗示しています。ですから来年は時代が変わる、自分自身も変わる年と思ってお過ごしになると良いと思います。

【二】子曰く、賜や、女 予を以て多く学びて之を識せる者と為すかと。対えて曰く、然り、非なるかと。曰く、非なり。予は 一 以て之を貫くと。

孔子が子貢に言いました。「お前は私のことを、多くを学んでそれを記憶している物知り

だと思っかね」

子貢がかしこまって答えました。「その通りです。そうではないのですか。」

孔子が答えました。「そうではない。私は心にある一つの道理を通してきたのだ。」

「予は一 以て之を貫く」の「一（いつ）」とは、三島中洲先生は「一は忠恕である」と言っておられます。シムックスの道場に「至誠一貫」という額が掛けてありますが、一貫の「一」のことです。つまり道理であるとか、天地自然の理・原理原則という言い方をしますが、その人の一生涯を貫く最大の判断基準であるとお考え下さい。同時に、それが天地自然の理と一致しているという事になれば、孔子が言う「予は 一 以て之を貫く」と繋がります。

ご自分の判断基準、ぶれずにずっと持っておられる方？・・・市川さんお一人、手が挙がりました。市川さんの生涯を貫く判断基準とは何か、お話戴けますか？

（市川会員）私は市会議員として、いつも市民の立場、弱い人の立場に立って活動してきました。

弱い者の立場に立つという事は、なかなか難しいことです。汗と涙は、自分で体験しないとなかなか分かりません。本当に弱い者の立場と一緒に立たないと見えて来ませんから、それが出来れば自然と人相も変わるし、態度・言葉つきも変わって来ます。市川さんのように「一 以て之を貫く」というものがサツと言えるのは素晴らしいですね。是非、そういうものをお持ち戴きたいと思います。難しければ、論語の中で好きな言葉を見つけましょう。それが見つければ、「一」に近いと思っています。私は論語の「利に放りて行えば、怨多し」という言葉が好きで、これが自分の判断基準の最たるものだと思っておりまので、そのまま持ち続けたいと存じます。

### **創造の原点に帰る**

本日のテーマ「創造の原点に帰る」とは、自分のスタート地点に戻ることです。人間だいたい 60 才前になると、果たして自分のやって来たことは良かったのだろうか、自分の人生を振り返るようです。60 才を過ぎておられる皆さんはどうでしょうか？ ご自分の人生を振り返って、「まあまあ、これでいいんじゃないか。このまま行こうじゃないか」と思っておられるでしょうか？ 或いは、「これから新しい人生の幕開けだ！」と動いておられるでしょうか？ 自分の人生あと何十年くらいと余命を考えられたなら、それをこれからどうやって生きようと考えますか？

木内信胤先生は「死ぬのは怖くないけれど、気が違うのが怖い」と言っておられました。

私も認知症になるのは怖いと思います。ですからそうならないように何をしたらよいか、考えて実践しています。例えば、身体を使ったじゃんけんのポーズで、相手が出したポーズに負けるように動くとか、自分の右手と左手で、右手が勝つようにじゃんけんをすることで、調べれば沢山あります。要は、脳を混乱させるのが目的です。決まったことを決まったようにやっていると、脳はどんどん硬化して、結果として認知症が始まります。

人間の脳は、使えば使うほど柔らかくなります。知らず知らずのうちに無くて七癖がどんどん増えますから、意識的に頭の中をかき回してみる必要がある。そして困ったならスタートに戻る、自分の原点に戻ることです。初心忘るべからずと言いますが、初心を思い出してみる。これの繰り返しを、来年はちよくちよくしなければいけなくなると思います。

来年は丁酉、大いなる変革の年ですから、相当色々なことが変わります。60年前を調べてみると、こんなことが60年前に始まったのかと分かります。ちなみに景気としては、60年前は上り調子でした。昭和30年はGNPが17兆円でしたが、10年後の昭和40年には42兆円になっていますから凄まじい上がり方をしました。但し、その間に何度も上下しています。昭和30年は神武景気で上がり、32年は鍋底景気でガタンと落ちました。その後は岩戸景気でガンと上がり、37年にまた落ちて、それから上がるという流れで所得倍増の10年間でした。

これからの10年は、それらをはるかに上回って来るのではないかと感じています。中身が違いすぎますし、スピードが速すぎますから、下手をすると地球がどうにかなってしまう可能性すらあるのではないかと……。温暖化もそういう流れですし、鳥インフルエンザも再燃しています。下手をすると自然災害・人為災害が人類を滅ぼす、その兆候が明確になる年でもあると思っています。